

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1. 調査概要

- 平成 30 年 4 月 17 日（火）に全国すべての学校を対象に一斉に実施された。
- 中学校 3 年生を対象に、国語・数学の 2 教科について A テスト（主として知識）と B テスト（主として活用）の 2 種類のテスト、および理科（3 年ごと）も実施された。
- 生徒の生活習慣や学習環境等に関するアンケート調査も同時に実施された。
- ◆公立の中学 3 年生の内、4 月 17 日にテストを受けた生徒は 96 万人余り、全生徒数の約 99.8% にあたる。

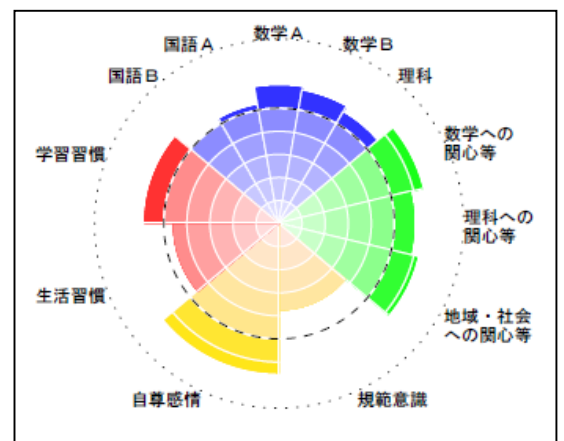
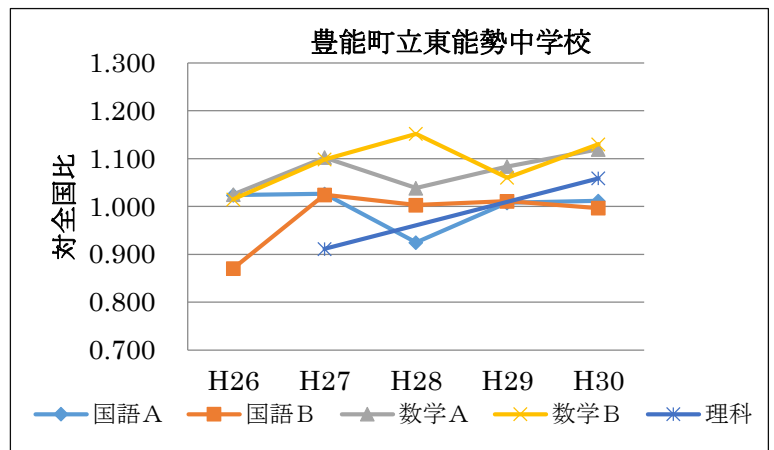
※この調査結果については、学力の特定の一部分が表れているだけで、本校は、調査標本数が 26 と少ないので、表された数値は、数名の回答で大きく変わる可能性があることに留意しなければならない。

2. 調査結果

【学力調査結果の概要】

右グラフは全国の平均正答率を 1 として本校の過去 5 年の各教科の正答率の推移を折れ線グラフにしたものである。国語は A、B ともほぼ同程度、数学は A・B とも全国平均を 0.1 ポイント以上上回った。理科も前回 (H27) から大きな伸びが見られる。

また、右下のチャートは教科学力、学習に関する関心・意欲・態度、規範意識・自尊感情、学習基盤となる活動・習慣について全国を比較基準として本校の値をチャート図に表したもので、---で描かれている円が全国基準である。理数への関心も比較的高く、課題であった自尊感情や学習習慣は高まってきたといえる。一方で規範意識（規則やいじめ問題に対する意識）や生活習慣（朝食、就寝時間）に課題が見られる。



【各教科の分析】

国語

現 3 年生は、「書くこと」にあまり抵抗を感じない生徒が比較的多い

(1) 全体概要

今年度は、A B 両区分ともに全国平均正答率や大阪府の平均正答率をやや上回っている。総合的に見ると、記述式の無答率も低く、100% の正答率のものもあり、「書くこと」に対する抵抗感 はさほどないと思われる。

「A : 主として知識」では、領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が全国平均を上回っている。しかし、「言語事項」においては、語句の意味を理解して適切に使うことがで

きるかどうかを見る問題で正答率が低いものがあり、語彙や言葉の知識を増やしていくことが今後の課題である。

「B：主として活用」では、「国語への関心・意欲・態度」が全国平均を上回っており、記述式の問題も全国平均よりも正答率が高くなっている。話の展開に応じて質問文を書くという記述の問題に、全員正解するような力が見られたが、「全体と部分の関係を踏まえながら話す」という面では課題が見られた。「書く」だけではなく、「話す」経験が力を伸ばしていくことになると思われる。

## (2) 正答率による分析

### ①正答率が全国と比較して 10%以上 上回っている問題

「A：主として知識」

- 6(ニ) 話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く。
- 8(六)2 歴史的かなづかいを現代かなづかいに直す。「とほさざるなし」

「B：主として活用」

- 2(三)話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する文を書く。(正答率は 100%)

### ②正答率が全国と比較して 10%以上 下回っている問題

「A：主として知識」

- 5 本文の第六段落の説明として適切なものを選択する。
- 8(三)イ 適切な語句を選択する。(群れを作って泳ぐ習性・・・)
- 8(三)カ 適切な語句を選択する。(健康になったのはひとえに母のおかげです。)

「B：主として活用」

- 2(三) 全体と部分の關係に注意して相手の反応を踏まえながら話を進めるときの方法として、適切なものを選択する。

## 数学

現3年生は、基礎的な力は身につけているが、応用的な力に課題が見られる

## (1) 全体概要

「A：主として知識」、「B：主として活用」とも全国平均を上回っており、本校の生徒は概ね学習内容を理解できていると言える。

「A：主として知識」では全 36 問中、正答率が全国と比較して 10%以上、上回っている問題が 12 問ある一方、10%以上下回っている問題が 2 問あった。「B：主として活用」では全 14 問中、正答率が全国と比較して 10%以上、上回っている問題が 5 問、10%以上下回っている問題が 1 問だった。また無回答率は全 50 問中で全国平均を上回った問題は 1 問もなかったもので、意欲的に問題に取り組む姿勢を身につけ、知識を活用する力を身につけてきていると言えるだろう。

## (2) 正答率による分析

### ①正答率が全国と比較して 10%以上 上回っている問題

「A：主として知識」

- 2(3)  $a=3$ ,  $b=-4$  のとき式  $a-2b$  のの値を求める
- 4(3) 長方形 ABCD を点 A を中心として時計回りに  $90^\circ$  だけ回転移動した図形をかく
- 5(1) 直方体において、与えられた面に平行な辺を書く
- 5(4) 底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の關係について、正しいものを選ぶ
- 6(1) 三角形の外角を表す式を選ぶ
- 7(1)  $\triangle ABC$  と  $\triangle DEF$  が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ
- 9(2) 比例のグラフから、 $x$  の変域に対応する  $y$  の変域を求める
- 10 点  $(-2, 3)$  の位置を座標平面上に示す
- 13 グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ
- 14(2) 反復横とびの記録の中央値を求める

15(1) 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ

15(2) 大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める

「B：主として活用」

1(1) 全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める

2(2) はじめの数としてどのような整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する

2(3) 計算の順番を入れかえたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める

3(2) グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める

4(1) 証明されたことから、新たにわかることを選ぶ

②正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

「A：主として知識」

4(1) ひし形が線対称な図形か点对称な図形か選ぶ

9(3) 反比例のグラフから表を選ぶ

「B：主として活用」

5(2) 通常料金を $a$ としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算から分かることを選び、その理由を説明する

**理科**

現3年生は、物理、化学については概ね理解し、生物については課題が見られる

(1) 全体概要

「主として知識に関する問題」、「主として活用に関する問題」とも全国の平均正答率を5%以上上回っており、本校の生徒は概ね学習内容を理解できていると言える。

分野別に見てみると、第一分野の物理的領域の正答率が全国と比較して10%近く上回っている。また、化学的領域の正答率も7%ほど上回っている。一方で、第二分野の生物的領域では、5%ほど全国と比較して下回っている。第一分野では実験などを定期的に行い、ある程度学習内容が定着していると言えるが、第二分野では、事象や観察の技能をきちんと理解し、論述することに課題があると考えられる。

(2) 正答率による分析

① 正答率が全国と比較して10%以上 上回っている問題

「主として知識」

2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる。

2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。

6(1) 電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている。

6(2) 実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる。

「主として活用」

1(2) テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる。

② 正答率が全国と比較して10%以上 下回っている問題

「主として知識」

5(1) 神経系の働きについての知識を身に付けている。

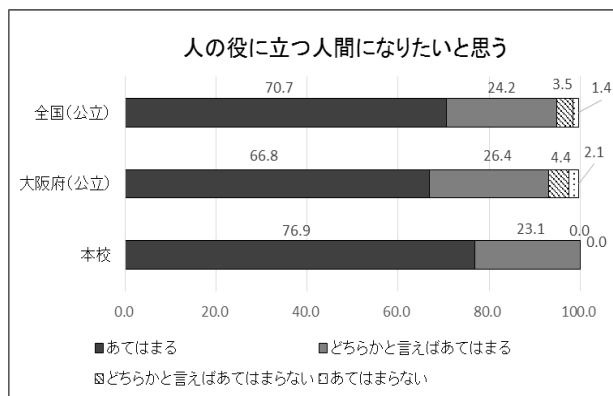
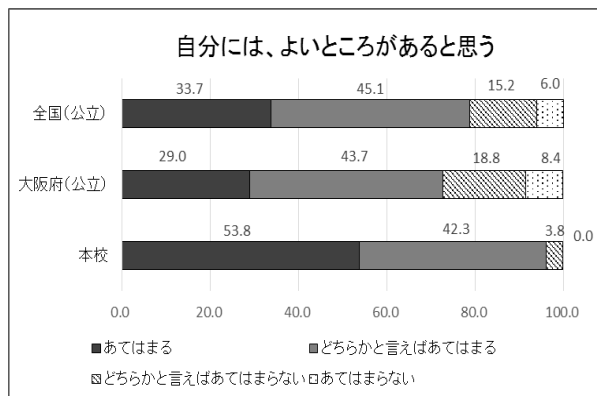
「主として活用」

※10%を下回る問題はなかった。

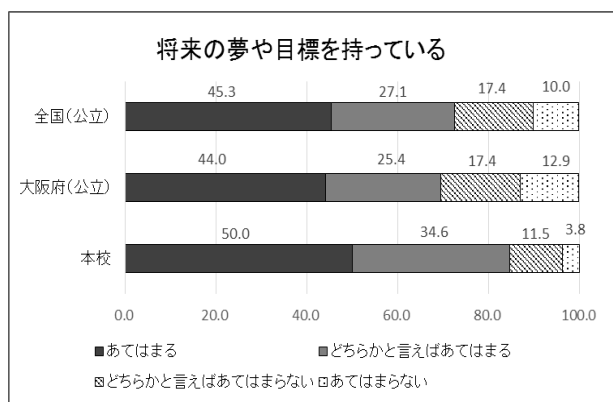
【生徒質問紙の分析（良かった点について）】

①自分自身について

自分自身のよいところを認め、将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多い



左上のグラフは「自分には、よいところがある」についてグラフにしたものである。本校の生徒（現3年生）は、大阪府や全国の生徒に比べ、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」という肯定的意見が多いことが分かる。また大阪府、全国に比べて「将来の夢や目標」をもっている生徒（右上）、さらに「人の役に立つ人間になりたい」（右下）と思っている生徒も多い。このことから、自己肯定感に立ち、人と関わりながら、社会の中で自らを生かして生きていこうとする態度が育まれていると言える。

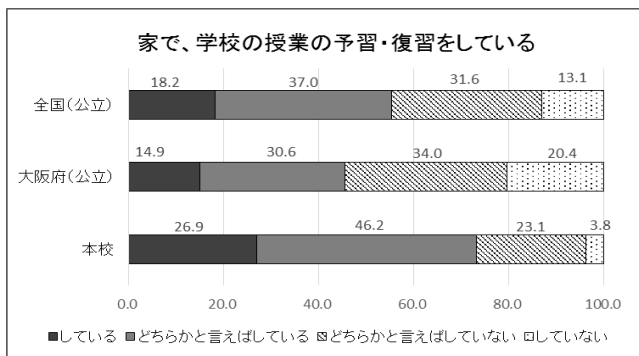


②家庭での学習について

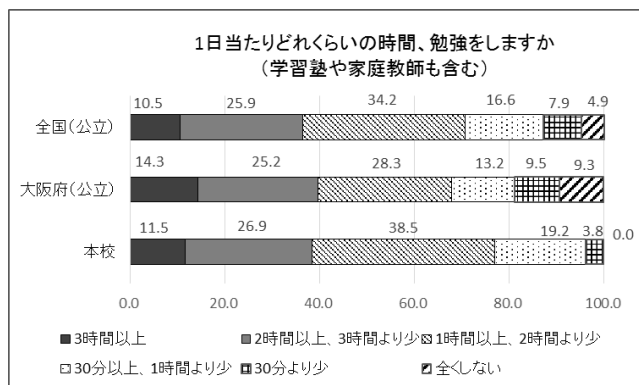
家で学校の宿題をし、教科書を使いながら、授業の予習・復習をしている生徒が多い

右のグラフは「家で学校の予習復習をしている」かについてのものである。本校は大阪府、全国と比べ、「している」「どちらかと言えばしている」の割合が多いのが分かる。

また、「家で学校の宿題をしている」かについての調査では、すべての生徒が「している」「どちらかと言えばしている」とし、「予習、復習やテスト勉強では教科書を使っている」かについての調査では、大阪府、全国に比べ肯定的意見が13～21ポイント高い結果である。これらは本校での宿題等提出物への取り組みや生徒ともに取り組んだ授業規律（「東能勢スタンダード」）の取り組みなど、授業を大切にする姿勢が反映されているのではないかと考える。



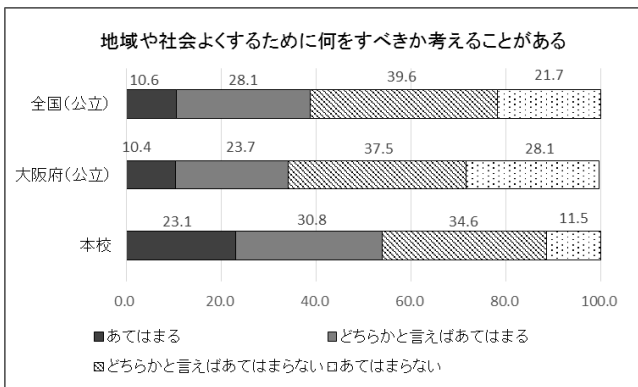
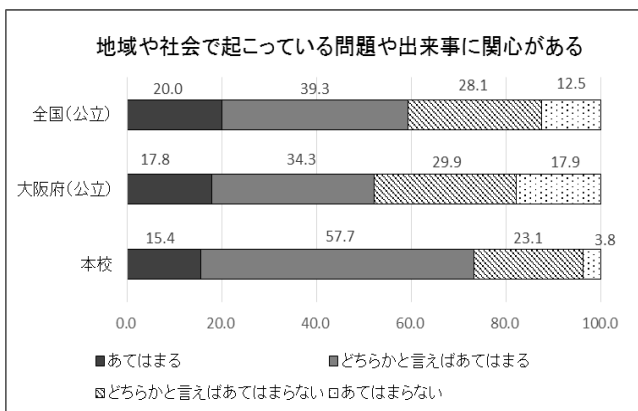
家庭での「1日の学習時間」（塾や家庭教師を含む）については、1時間以上と答えている生徒が8割弱（76.9%）と、大阪府（67.8%）、全国（70.6%）に比べ多く、また「30分以下」「全くしない」の割合も極めて少ない（3.8%）という結果となっている。学校以外での学習習慣については、より多くの生徒が望ましい態度を身につけていると言えることができる。



あろう。

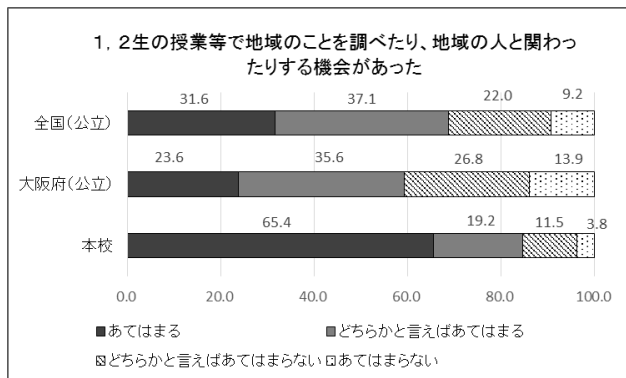
### ③地域・社会への意識と関わりについて

地域や社会に関心を持ち、よりよくするために関わり方を考える生徒が比較的多い



左のグラフより、「地域・社会の問題や出来事に関心がある」かについて、本校生徒は大阪府、全国に比べ、肯定的意見が多い。加えて、左下のグラフより、「地域・社会を良くするために何をすべきか考えることがある」かについても、肯定的意見が多い。

このことは、右下グラフに表れているように、本校での職場訪問・体験を始め、保育体験、伝統文化体験、国際理解活動、草刈り、梅ジュース作りなど、地域の方や保護者の力を活用した教育活動を展開していることと関連があると捉えることができる。



また、「住んでいる地域の行事への参加」については、「している」「どちらかと言えばしている」という肯定的意見が69.3%と、大阪府(34.0%)、全国(45.6%)に比べ高い結果を示している。さらに「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする(学校、塾、習い事を除く)」かについても、肯定的意見が大阪府や全国の結果より約10ポイント高い結果を示している(本校:38.4%、大阪府:25.1%、全国:25.5%)。地域とのつながりへの関心に特徴のある学年である。

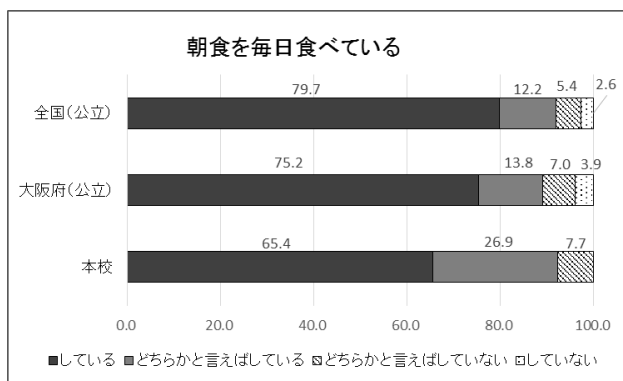
### 【生徒質問紙の分析(課題について)】

#### ①生活習慣について

朝食を摂らない生徒はいないが、毎朝必ず摂るという生徒は大阪府や全国に比べ少ない

右上は、「朝食を毎日食べている」かについてのグラフである。本校についてみると、朝食を食べない習慣のものはいないという結果であり、大変好ましい状況にあると言える。

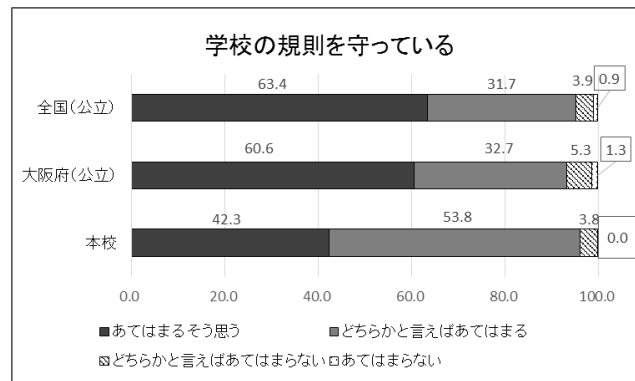
しかし一方で、毎日必ず朝食を摂っている生徒の割合は、大阪府や全国と比較すると10~14ポイント少なく、さらに毎日朝食を摂れていない生徒の割合が、約14ポイント高い。一日の多彩な学習活動のスタートを支える毎朝の朝食を習慣として身につけることが望ましい。



## ②規範意識について

### 学校の規則を積極的に守る態度にはやや弱さがある

右下は、「学校の規則を守っている」かについてのグラフである。「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」という肯定的意見では大阪府や全国と同じ程度の割合ということが分かる。しかし、「守っている（あてはまる）」とする生徒の割合は約20ポイント低い。判断の基準は生徒によって揺らぎがあると思われるが、社会のルールを尊重する意識に繋がる規範意識として大切に考えたい。



### 3. 今後に向けて

- ◆ 本校で確認している学習面でのつきたい力（①どんな変化にも対応できる基礎学力②自ら学ぶ姿勢③人の考えを取り入れながら、自分の考えを深め、表現する力）の育成に向かって「確かな学び推進事業」を中心に全職員一枚岩となって取り組む。
- ◆ 各教科、各教育活動において「主体的な対話的な深い学び」を視点とした授業改善のなかで、言語活動の充実を意識した授業づくりを行い、ことばの力の向上に取り組む。
- ◆ 地域や社会の中で自分を活かすという姿勢を大切にしながら、集団の中で生活するためのルールやモラルの重要性、人との違いを理解し合い、人を思いやり人と協力しあう心の育成に努める。

以上のように全国と比較して特徴的な項目について報告致しました。これまで取り組んできたユニバーサルデザインの授業づくりの視点、小中連携や生徒会で築いてきた東能勢スタンダードを大切にしながら、一人ひとりを大切にしたい、一人ひとりが輝ける学校をめざして、ご家庭や地域の皆さまと連携しながら教育活動を進めてまいります。